

# こんなん しています。

わだいとまわり

— 314 —

## 川上村

紀の川の最源流の村、奈良県川上村に行ってみました。

紀の川は、大台ヶ原を水源として奈良県南部から和歌山県へ、紀の川平野を東西に貫くように流れ、紀伊水道に注ぐ一級河川。奈良県側では吉野川と呼ばれています。

川上村は吉野林業発祥の地。村には大和の水がめといわれるふたつのダムがあり、村の森から生まれた水は大和平野や和歌山平野を潤す、川上村は森と川の村です。

大迫ダム（1973年

完成）と大滝ダム（20

13年完成）の建設では当時の村の1/3もの世帯が水没しました。大滝ダムのダム湖には役場や神社など村の中心部と500世帯近くが水没し移転。苦渋の決断でした。

私たちが恩恵に預かる紀の川最源流の村はこうした沈痛な近年の歴史を持っていきます。

## ガタロ伝説

大滝ダムの上流部に大迫ダムがあり、さらに奥地の川沿いに秘境の小さな温泉郷、入之波（しお）は集落があります。このあたりには河童のガ

タロ伝説があります。

伝説はこうです。

入之波の里に棲む河童は、馬を川に引きずり込んだり子どもを尻子玉を抜いたりするいたずらものだった。ある日、村の若者がガタロと相撲を取り勝ったので約束どおりガタロは毎日ザル一杯の魚を若者に届けるようになった。しかし見知らぬ女がそのザルを捨ててしまったのでガタロは魚を持って来なくなり姿を消

し被害もなくなった、というもの。

全国各地には数多くの河童伝説があり呼び名も多彩です。和歌山県や熊野地方ではガタロ、ガタロウ、ガラボシ、ゴランボ、カシャンボなど。春秋の彼岸を境に夏川にいる時はゴランボ、冬山にいる時はカシャンボとも呼ばれます。

共通の特徴は川や沼で人を溺れさせ、尻子玉肛門のそばにある架空の

生りのきゅうりはガタロに供えて

いる」と川上村役場の方。河童と

きゅうりの関わりは、河童は水の神、または

その零落した姿ともいわれ、きゅうりが水神信仰のお供えだったからとの説があります。

妖怪話は、人間には不可思議な自然現象や不都合な出来事、禁忌を「妖怪の仕業」などとして象徴的に語られたとも考えられます。河童の場合は子どもを危険な川には近づかせないように、あるいは人の立ち入りを遮断するための警告だったり

と。恵みも災いも深く内包した自然への怖れや教訓、戒めなどの代弁者としての位置づけです。多くの怪異現象は科学

「地元では今でも信じる人がいて、初

江戸時代に描かれた河童（鳥山石燕作 パブリック・ドメイン）



的に説明がつかぬのかもありません。その意味では、妖怪が示唆することには理にかなっています。

「山と川の怖さは山と川から学んだ」そうおっしゃったのは今なお山深い川上村の住人。「いろんなものが妖怪を滅ぼした」とは妖怪博士と言われる友人です。

山には開発の波が押し寄せ、川は治水のために改変され、自然の怪しさは姿を消しました。

自然は畏怖の対象ではなくなり、河童もおそろく住みにくい世になったことでしょう。

# ガタロのかっぱ



紀の川（吉野川）源流域

家を抜く、家畜にいたずらをする、相撲が弱いのに取りたがる、逆に人間に懲らしめられる、許しを請うて魚を届け、きゅうり好きなど。

「地元では今でも信じる人がいて、初

プロ  
フィル



湯崎真梨子（ゆざき まりこ）

和歌山大学食農総合研究教育センター客員教授

元和歌山大学教授、博士（学術）。専門は農村社会学、地域再生学。自らの研究に加え、地域と協働するプロジェクト研究をマネジメントしている。